

令和6年度

牟岐町立牟岐中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①主体的に学習する生徒を育てるわかる授業の確立。
- ②体験活動や言語活動の充実。
- ③保小中の系統的な学習方法の確立。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	学校長 前田 幸作	教頭 中口 崇
		瀧川真理子	教務主任 坂田 博紀 1学年主任 田中 香苗 2学年主任 瀧川真理子 3学年主任 居村 雅人

校長

前田 幸作

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員による相互授業参観や情報交換を通して、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業態度は良好で、朝自習も集中して取り組んでいる。「ながら」学習しないように意識している生徒が増えた。 ●聞く力が弱い。授業内容の理解度が低下しつつある。家庭での学習習慣が身につけていない生徒が多い。	①意欲的に授業に取り組み、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ②学習方法を身につけ、自主的に学習に取り組むことができる。	①相互授業参観を学期に1回実施し、授業の工夫・改善を目指した職員研修を行う。 ②授業では「ふり返し」の時間を確保し、課題は計画的に取り組んで提出させる。 ③家庭学習調査を実施し、計画的に勉強に取り組むよう意識付けをする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○班活動で、自分で調べたことや考えたことを発表させることで、意欲的に言語活動等に取り組む姿勢が見られた。 ●読書活動や、授業中に考えて発表すること、考えを他の人に説明することに対して苦手意識がある生徒が多い。	①すべての授業を通して、自分の思いや考えを正しく表現できる。 ②異年齢集団や地域の人との交流を通して、積極的に発言し、意見をまとめることができる。	①すべての授業に言語活動を取り入れる。 ②保・小・中で「聞くこと」に重点を置いた取組を行う。 ③異年齢集団や地域の方と連携し、生徒主体の体験的な活動を通して、学んだことを発表し、表現する力を伸ばす。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に前向きに取り組む姿勢が見られ、生活のきまりを守って学校生活を送ることができている。 ●分からないときに諦めてしまう生徒が多く、探究心を持って取り組もうとする生徒と二極化傾向が見られる。	①学ぶ楽しさや喜びを感じて、自信をもって粘り強く続けることができる。 ②自分の課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	①主体的な活動や、意欲を高め、成功体験を味わうことができる活動を取り入れる。 ②情報交換を密にし、生徒理解を深めて、個に応じた指導を行う。 ③仲間と助け合い、協力し合えるような集団づくりを目指す。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

